

これから研究室を決める
あなたに.

富山県立大学
中田崇行

E-mail: nakata@pu-toyama.ac.jp

URL: <http://nakata.pu-toyama.ac.jp>

ねえ.

一生懸命，学生生活
やってる？

大学生あたり(1998~2004)の頃

- 一ヶ月に一回登校，大体において金沢にいませんでした.
- 空白の一年間
- 入院
- だまされてドイツに学会
- 日本縦断



- とうとう横浜に流されました。
- その時頑張ったので、今生きていられます。
- 担当教官の藤原先生と包先生には
足を向けて寝られません….

まとめ

無職やフリーターは辛いのでやめましょう。
(経験者は語る)

旅で自分が見つかることは、まれです。

ある程度の期間、一生懸命に
努力をしないと、何事もうまくいきません。
でも一生懸命って、とっても楽しいです。

もし皆さんが、その努力を傾けるに
ふさわしい研究室を探したいのなら、
全力で協力させていただきます。
いつでも連絡下さい。

ちょっと休憩



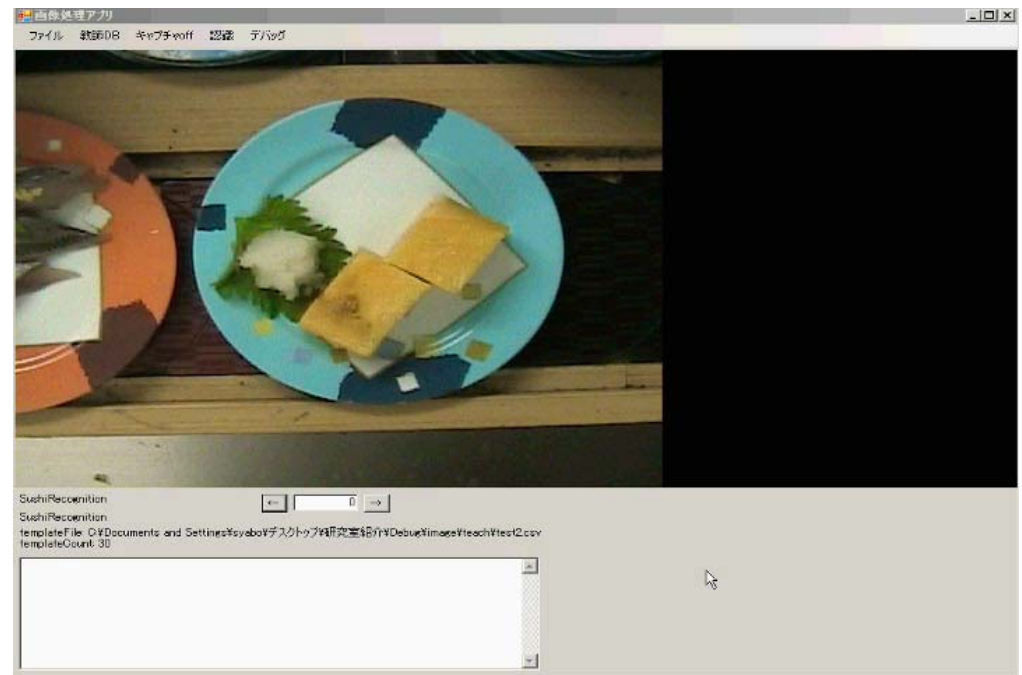
今までやってきたいろんなもの

イメージは、実験1-4「デジタルデータ処理」課題がもっと実践的になったバージョン，でいいと思う。

⑥回転寿司

- ①ラーメン袋
- ②水道管の設計図
- ③城端のニット布
- ④立体映像伝送
- ⑤トリック花壇

うちの研究は，
半分くらい共同研究です。



いつか特許取って売り出してやる。

①ラーメン袋

任意位置のカメラ画像から登録画像を見つけ出し、
その位置姿勢を検出する。



登録テンプレート

正面
カメラ



被検索画像

任意位置の
カメラ

実験1-4で「巳と己」やった人は覚えてるかもしれないけど、
かなり正統派な画像認識のテーマ。

処理結果

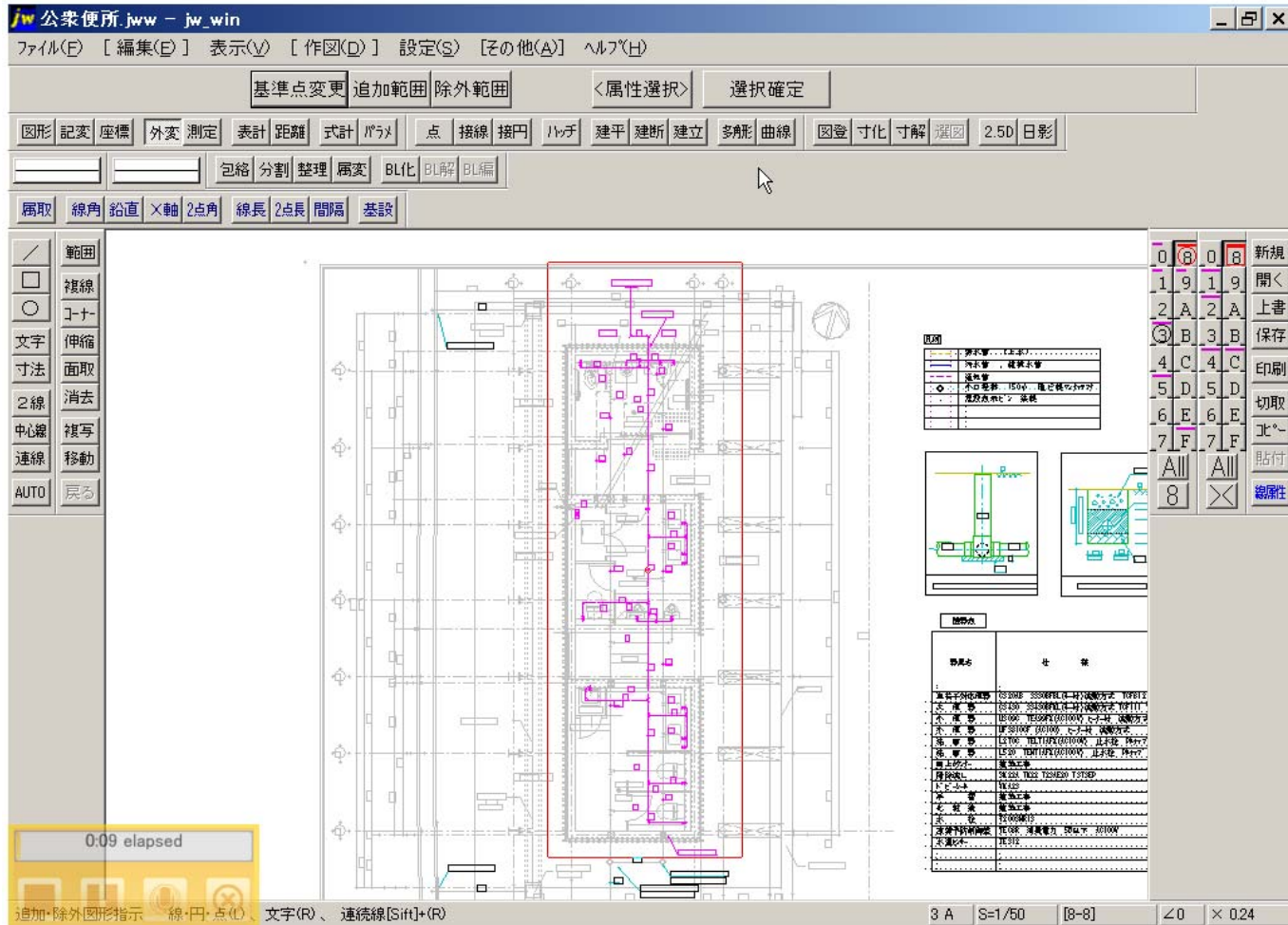


もっと、きつい傾斜の画像でも検出できない？

曲面にラーメン貼っても検出できない？

できりゃすごい.

②水道管の設計図



配管認識

手作業で読んでられねえ、てことで、
自動的に管の長さとか太さを読み取るソフトを
開発しました。人間の60倍以上のスピードが出ます。

東京の会社に使われました。

県立大 企業に技術を移転

開始式 配管長測定装置

県立大(射水市黒河)は、学内での研究成果と特許出願権を有償で企業側に譲渡する初の技術移転の開始式を開

いた。同大は企業などからテーマを募り、教員と学生が卒業論文の研究に取り組む。その成果を企業側に譲渡、技術移転する事業に取り組んでいる。

技術移転に初めて成功したのは、コンピュータで図面を読み取り、配管の長さ、太さなどを自動的に集計できる「配管長測定システム」。配管施工業者「ダイシン設備」(魚津市)から二〇〇五年一月に提案があり、工学部情報システム工学科の中田崇行講師(三三)と学生が研究開発した。同大と大手配管施工会社「三建設備工業」(東京)が三月に技術移転契約を結び、実用

技術移転の成功を喜ぶ
田中校長(左)ら関係者
射水市黒河の県立大で



化が決まった。

式典では田中正人学長が「研究が現場で活用してもらえうれしい」「三建設備工業の岡崎俊春取締役は「二〇年度から運用を始め、広く技術を社会に還元したい」とあいさつをした。(佐久間博康)

今、企業内で製品化のための技術開発中です。
社会で即戦力になる研究もあります。

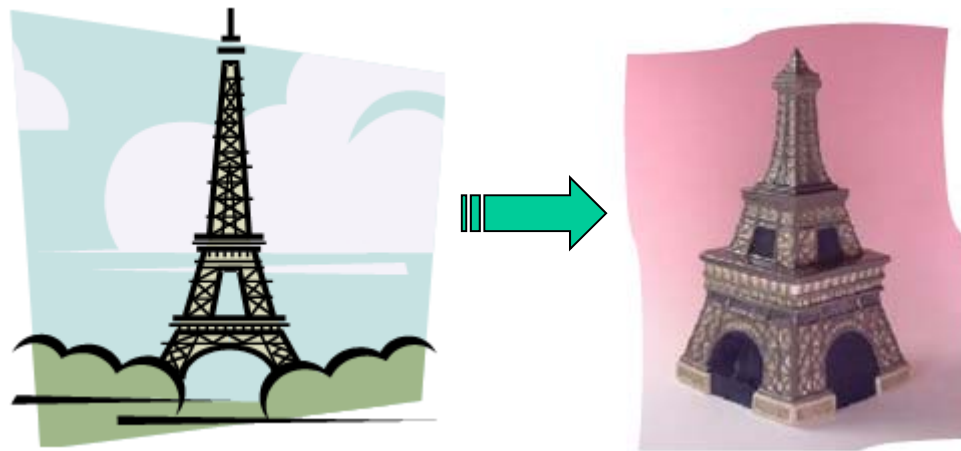
③城端のニット布

「売ってるセンサでは、うまくいかないので作ってください！」
と言われて、おもしろそうなので引き受けました。



④立体映像伝送

ロボット視覚，三次元映像，バーチャルリアリティに
またがる 大変チャレンジングな意欲作！！（予告ふう）

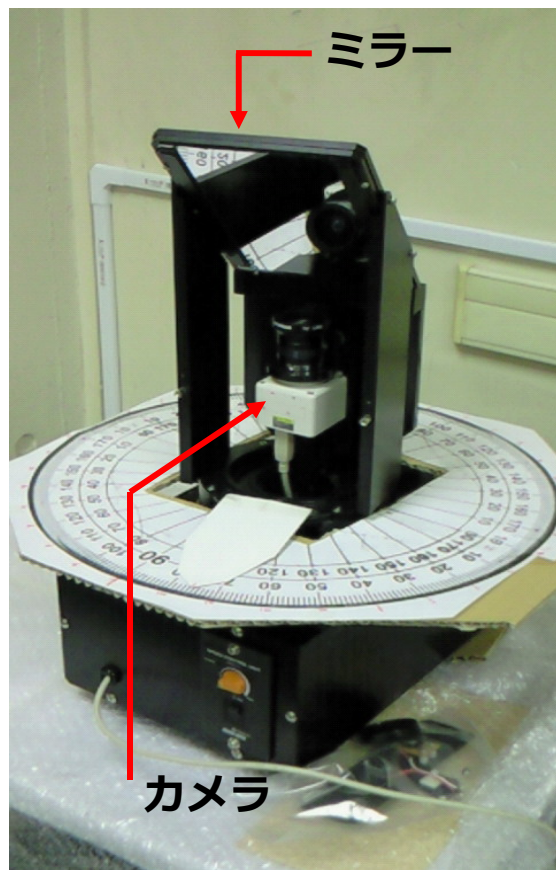


二次元見回し

立体ディスプレイ等で
立体視が可能

ほら，昨日から3D映画の「アバター」公開してるし。
スターウォーズエピソード7に間に合わせましょうよ。

3次元立体カメラ



動き回れるともっと楽しい

今作ってるところ.



インターネットから動かすぞ.

⑤ トリック花壇

「画像処理を利用して、おもしろい花壇作れませんか？」
やっぱりおもしろそうなので引き受けました。

【原 画】



【変換処理】



今は円筒鏡（アナモルフォーズ）形式の
花壇を提案しています。もっと面白いの考えよう。

春に，銀座にチューリップ植えに行きました．



来春は千葉県の佐倉チューリップ公園と，立山あるぺん村に出現します．というか，もう植えました．

実は再来年はチューリップフェア60回記念



一緒に大花壇を狙わないか！

いい先生といい研究室に
巡り会えたおかげで
僕は今ここに存在しています。
願わくは、みなさんも
そのような研究室で
一生懸命、楽しい研究生活が
送れますように。

僕の研究室がそれに関われるなら、とても嬉しい。

<http://nakata.pu-toyama.ac.jp>